

# 教文部学習会

「原発3キロメートル圏からの脱出」～今まで…そしてこれから～  
講師：川崎葉子さん



講師 川崎 葉子さん

7月28日(火)は嶺南会場(プラザ萬象)において、7月30日(木)は嶺北会場(県教育センター)において、講演会を行いました。講師の川崎葉子さんは、福島県で総合カルチャースクールや経営学習塾の講師として精力的に活動されていましたが、2011年の東日本大震災後の福島第一原発放射能漏れ事故により、知人を頼って避難し、現在は坂井市丸岡町に住み、福島復興のための支援活動を行っています。



講演会では、建物が倒壊し道路が寸断された状況の中を必死で自宅へ戻ったこと、家族の無事を確認した安堵感、避難所での不安な一夜、そして突然の原発10キロメートル圏外への避難命令など、時間を追って話される内容は地震と放射能漏れの鬼気迫る恐怖が伝わってきました。非常事態で「生」と「死」を分けたものは何だったのか。情報がほとんどない中での状況把握と判断力、それは多くの命を預かるわたしたち教員への強いメッセージでした。

双葉町へは永久に戻れないが、なんとか「ふるさと」福島で暮らしたい、そんな思いをもった人の支援活動に取り組んでいる様子を、力強く語っていただきました。



## <参加者の感想>

○東日本大震災から4年が経ち、改めて知らされた事実がたくさんあり、体が震えました。ふるさとである福井は私にとって、とても大切なところ。人と人とのつながりを大切にこれからもしっかりと毎日を生きていこうと思いました。

○「寄り添うこと」「コミュニティ」「とっさの判断」について考えさせられました。社会をつくりかえることができるのは「子どもを育てる教員」というのが自分の教師としての思いです。「教育」をしっかりし「人としてよりよく生きる」子を育てたいです。

○その時、その場において体験した者にしか分からないこと、そして、感じたことや考えたことがリアルに伝わってきました。支援にはいろいろな形がありますが、寄り添うこと、共感することの大切さが分かりました。

○今までひどい状況だと思って見ていたテレビの映像は、実際の恐ろしさや悲惨さの何分の1も伝えていなかったことを知らされました。政府や自治体の対応など真実を知る機会ができ、ありがたかったです。大変な状況の中で、被災者の事実を伝える活動をされている姿に感銘を受けました。